



人情の暖かさ と新しい時代の 調和を目指して

妹背牛町長 田中 一典



令和4年新春あけましておめでとうございます。町民の皆様にはご家族共々つつがなく新春を迎えられた事とお慶び申し上げます。

11月の町長選挙におきまして、町民の皆様から無投票当選という身に余る栄誉をいただき、まさに身の引き締まる想いです。今後とも、ご指導宜しく願いいたします。令和3年も引き続き感染症に振り回されましたが、昨年末にどうにか落ち着きを取り戻したようで安堵しているところです。

令和3年は猛暑の夏でした。胴割れ米も見られましたが、総じて収穫量と高品質に助けられました。しかしながら、営農者にとりましては、コロナ禍でのコメ余りを生じたため大幅な米価の下落を引き起こしました。

また、ご存知のように何度も発出されてきました感染症の警戒自粛要請によって冷え込んでしまった町内業者を直撃している経済の問題も抱えており、この厳しい状況を乗り越えていけるように可能な支援を続け、町民の皆様と、日常を取り戻すために尽力する覚悟です。

さて、妹背牛町のふるさと応援寄附金は、さまざまな宣伝効果のおかげと今までのお米の優秀な品質管理もあって、現在も順調に伸びているところです。引き続き

妹背牛米の素晴らしい味覚を全国にお届けできる事に喜びと誇りを感じております。

また、子育て世代交流施設「from☆Moko（フロムモコ）」が昨年12月1日より試験運用を開始し、週2日間開館しています。4月より地域の子育て支援の拠点として健康福祉課のもとで運用がなされます。子育て支援に資する場所としてどうぞお気軽にお立ち寄りください。

妹背牛町では空き家等の除却・流通及び利活用促進の連携協定を企業と結び、町内の空き家等の新陳代謝を促進します。そして、現在まで1人1件のみであった解体費支援の限定を外し、除却の推進をスムーズにします。

12月の議会で、妹背牛町としてゼロカーボンシティ宣言を行いました。これは世界の大きな流れと政府の方針と歩みを合わせ、妹背牛町も次のステージへと進めるため、現在公共施設へ地産地消の電力供給する検討を行っています。ゼロカーボン世界共通の課題であり、妹背牛町としても令和4年は、ゼロカーボンを目指す取り組みの元年と考えています。

実りの多い出来秋を祈念し、毎日の努力が報われる持続化可能な故郷を、町民の皆様と力を合わせて磨き上げていきたいと念じ、年頭のご挨拶と致します。

時代の変化に対応した 町の発展を願って

妹背牛町議会議長 渡会 寿男

新年明けましておめでとうございます。

令和4年の輝かしい新春を、町民の皆様とともに迎えられることを心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より町議会活動に対しまして、温かいご支援とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、新型コロナウイルスに振り回された1年であったと感じております。しかしながら、ワクチンが開発され世界各国で接種が始まりましたことは、当たり前日常を取り戻すための希望の光となりました。本町も、約9割の方が接種を終えられているとのことで、制限をされていた不自由な生活も緩和され、町の景気回復に繋がるものと考えております。また、1年遅れで開催されましたオリンピック・パラリンピックでは、競技の勝敗はさることながら、人種を超えた深い絆が、私たちに大きな感動を与えてくれました。国政に目を向けますと、昨年10月に第49回衆議院議員総選挙が行われ、新たに岸田内閣が誕生しましたことは記憶に新しく、厳しい日本経済の回復をはじめ、内外ともに抱えている諸問題などに果



敢に立ち向かわれ、国民が安心して生活できる基盤作りを強く望むところであります。

本町においては、昨年11月に無投票ではありましたが、田中町長の再選が決定いたしました。基幹産業であります農業、特に水稻におきましては、大きな災害に見舞われることもなく順調に生育し、高品質・高収量という豊穡の出来秋に恵まれましたことは大変喜ばしいことではありますが、一方で米価の下落が予想され、本町の農業経営にも大きな影響を与えるものと懸念されている状況であります。町の経済対策、さらに、少子高齢化、商工業の振興等、本町を取り巻く情勢は厳しく、2期目となる田中町政に町民の大きな期待が寄せられるところであります。議会といたしましても、二元代表制の一翼を担う機関として、町行政執行機関と対等の立場で、町政推進における意志決定や行財政執行の監視など、重要な責務にあたってゆく所存であります。町発展のために精一杯努力をしておりますので、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が町民の皆様方にとって、実り多き年となりますことを心からご祈念いたしまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。